

—仲間とともにつながる学校へ—

「共同的な学び」「協同的な学び」「協働的な学び」

単に「グループ活動」と一括りにするのではなく、学習目標や内容に応じて、どの「学び」の要素を強く意識させるかを考えることが重要です。
例えば…

基礎知識の定着には「共同的な学び」の要素を取り入れた個別学習時間を設ける。
特定の課題解決やプロジェクト学習には「協同的な学び」で役割分担を明確にする。
探究的な学習やブレインストーミングには「協働的な学び」で自由な発想を促す。



・「共同作業」と「協働的な学び」の違いに気づくことができました。自分が授業で行っているグループワークが「共同作業」になっていないか、改めて見直そうと思います。

・共同作業と協働学習の違いについて具体例を踏まえて説明いただいたので、わかりやすかった。

・「協働的な学び」のための効果的な課題設定の重要性について改めて考えさせられました。どのような課題設定にするかで、深められる度合いが大きく変わってくると同時に、みんなが学ぶ楽しさもぐんと広がっていくと思います。

・自分の授業を振り返ってみて、発言力が高めの生徒たちなので、その長所を活かした授業づくりを目指したい。

・グループワークの大切さを改めて感じました。今回の授業のように意見交流が目的のグループワークと討議をしたうえで結論を導くものではアプローチが違ってくるなと感じました。

・共同作業を協働的な学びに変えるための工夫について、相互に関わる必然性を設定するというのなるほどなと感じました。今後考えていきたいです。

・協働学習についての3つのポイントがとてもわかりやすく、授業に取り入れたいと思った。

・今日の研究授業についてグループで交流してくださいが大人もイヤだと感じるように子どもたちもイヤだということ。安心して発言できることが大前提であると感じた。
その安心が担保できない状態をどのように改善するかが課題だと感じる。

・共同と協働の違い。私のイメージする子どものゴールの姿は協働だと改めて実感しました。

先生方の振り返りから①
～山下先生Ver.

市教委の山下指導主事からは、主に「効果的なグループ活動」についてお話しいただきました。今年度、研究課題達成のための具体的方策として設定しているペア・グループでの話し合い活動が、「共同作業」で終わることなく、対話的で深い学びにつながる「協働的な」取り組みとなるよう、課題設定が重要だというお話でした。

今回提案授業で、「作業時にグループのまま」他者との対話や他者参照をしながら描く、という活動を取り入れていただきました。

授業の見取りの中で「グループでの会話がなない」「成立していない」というものがありましたが、これまでと違う活動を入れて、どの授業でも、初めからうまくいくわけではありません。生徒も少しずつ、対話ができるようになっていくものです。

1人の100歩より100人の1歩。
(日本電産創業者永守重信氏の言葉)

「提案授業だけ」「誰かの授業だけ」では、生徒の対話力になかなか変化は見られませんが、その授業をする人がいなくなったら元に戻ります。「知識の伝達」に留まらず、教員が手を放しても、生徒が自分で学べるようになっていけるよう伴走するのが、これからの教員の仕事です。

More Information



個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

島根県教育センター
「今の学び方をちょこっと変えルートマップ」

これめっちゃわかりやすかったので、ぜひ。